

# 1. 令和8年度の重点事項について

## (1) 認知症施策について



加賀市市民健康部介護福祉課

令和8年2月19日



## 第9期計画の重点的な課題

○重症化予防の推進

○住民の社会参加促進による支え合い、助け合いの地域づくり

○認知症の人とその家族を支える仕組みづくりの推進

○状態が変化しても対応できる柔軟な支援体制の構築

○民間サービスや他部署との連携による多様な支援の展開

○本人本位の視点を重視した人材の確保や育成

○デジタル化促進による生産性向上

○ハラスメント対策を含めた働きやすい職場づくりに向けた取組みの推進

○医療と介護の更なる連携推進や医療依存度の高い方への支援体制強化

令和5年度加賀市健康福祉審議会高齢者分科会 第4回会議資料から

## 第9期計画における取り組みについて

①認知症に関する相談件数の増加及び介護保険申請時の理由に認知症が増加している。

▶認知症の予防(「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」こと)の推進  
●もの忘れ健診、地域おたっしやサークル、脳活性化プログラムの普及、認知症ケアパスの普及

②在宅介護実態調査において、介護者が不安を感じる介護として、要介護1、2の場合「認知症状への対応」の割合が高い。

▶介護者及び本人を取り巻く支援者の認知症の対応力の向上 ●チームオレンジの設置  
▶地域住民等の認知症の正しい理解の促進 ●認知症サポーター養成講座の開催、  
個別地域ケア会議の開催(※1)

(※1 個別地域ケア会議とは、支援が必要な高齢者等に対して地域関係者や支援者が集まり、支援方法を検討し、役割分担等を行う会議。)

③施設入居の場合、住まい変更の理由として、「医療処置の必要性」と「認知症状の悪化」が主な理由となっている。

▶介護職の医療に関する知識及び認知症のケアの向上  
●認知症初期集中支援チーム(※2)(専門職チーム)の施設への拡大

(※2 認知症初期集中支援チームとは、認知症専門医や精神保健福祉士等の専門職が、医療の見立てや適切な医療サービスや介護サービスを紹介したり、困りごとを伺い、支援者と一緒に解決策を考える場)

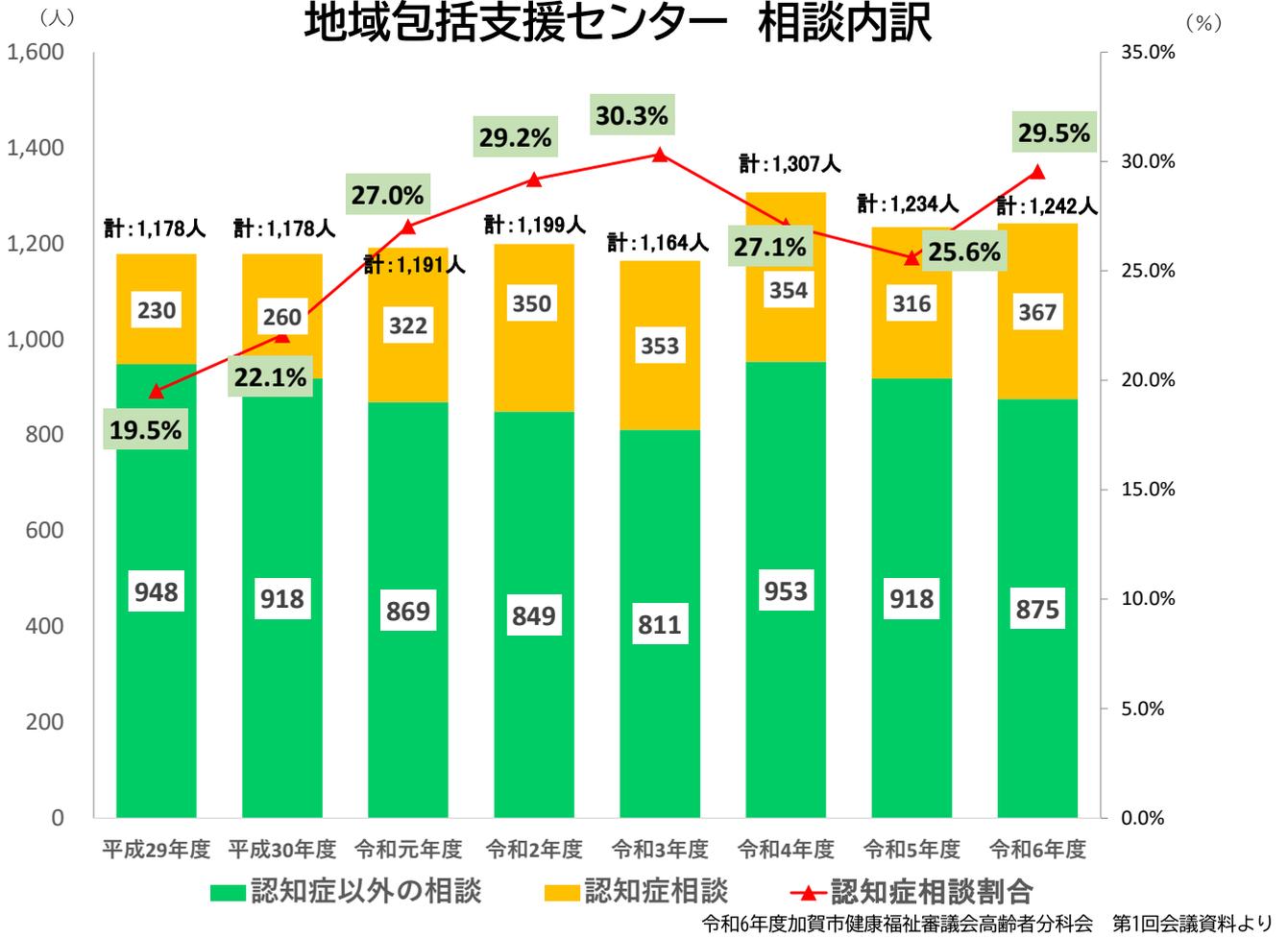
●認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式(アセスメントツール)の活用  
●医療知識に関する研修会の開催

④当事者同士または家族同士が集い、話しあう場を望んでいる

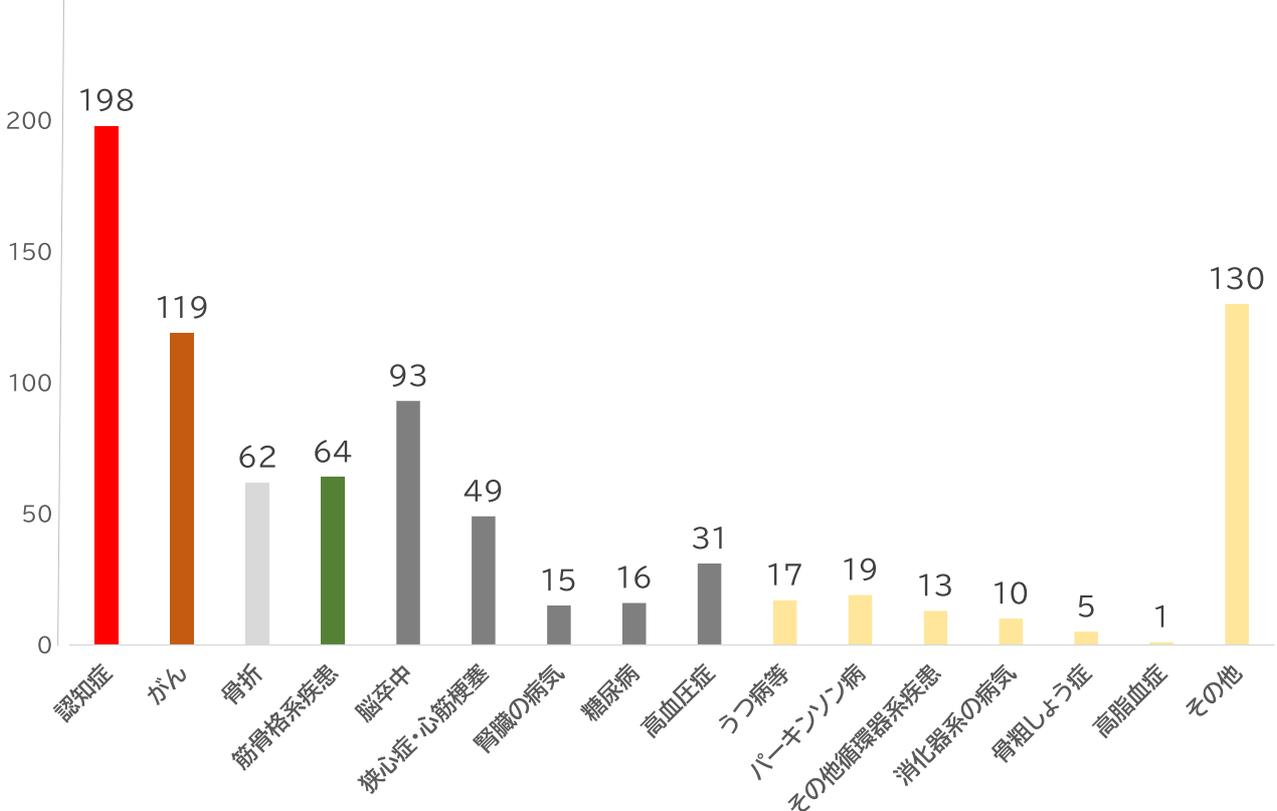
▶居場所の設置  
●認知症カフェ(Cog-café)の開催



# 地域包括支援センター 相談内訳

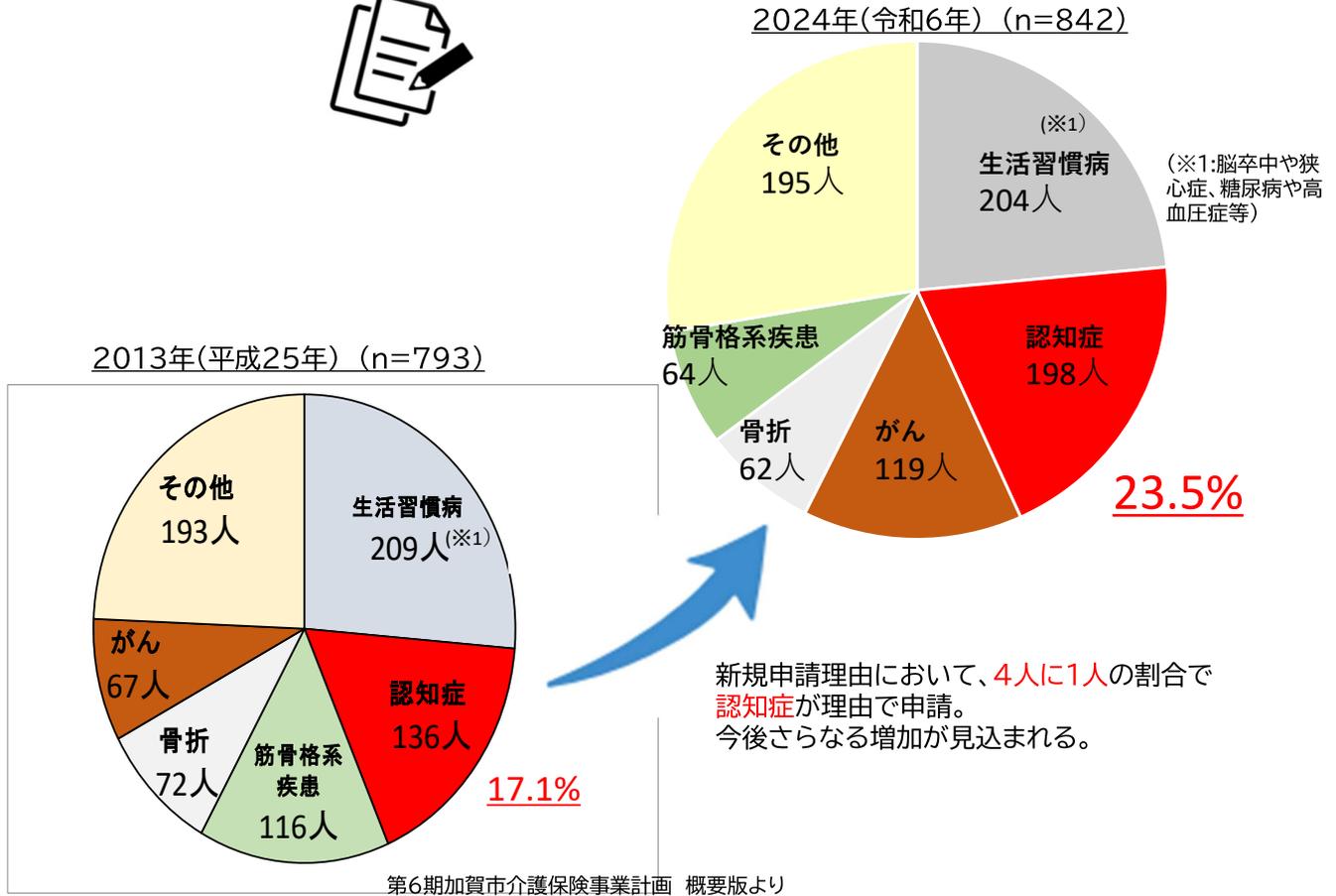


## 新規要支援・要介護認定者の申請時疾病理由 (令和6年度)



※令和6年4月から令和7年3月の新規要介護申請者(842人)の主治医意見書主病名1より

# 介護保険の申請における新規要支援・要介護認定者の申請時疾病理由について (平成25年、令和6年との比較)



## 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に基づく加賀市としての認知症施策について

令和元年6月 認知症施策推進関係閣僚会議決定

### ●認知症施策推進大綱

#### 【基本的な考え】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防(※1)」を車の両輪として施策を推進

(※1:予防とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味)

▼共生社会の実現に向けた取り組みとして法制化。

令和6(2024)年1月施行

### ●共生社会の実現を推進するための認知症基本法

#### 【基本的な考え】

認知症の人本人の声を尊重し、「新しい認知症観(※2)」に基づき施策を推進。認知症の人が希望を持って暮らすことができるよう、**認知症の人を含めた一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮し**、相互の人格と個性を尊重しつつ、支えあいながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進。

▶基本法では計画策定は努力義務だが、市は第10期介護保険計画策定時に策定予定。

これまでは…

- ・認知症だから仕方ない。
- ・認知症自体の受け入れが難しい。
- ・認知症になると何もわからなくなり、できなくなる
- ・認知症は本人より周囲が大変だ。他人事。
- ・社会的に孤立し、意思が十分尊重されない 等々

・誰もが認知症になり得ることを前提に、「他人ごと」から「自分ごと」として考える時代へ

(※2)

認知症になったら、何もできなくなるのではなく、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方

4つの  
重点目標

「新しい認知症観」の  
理解

認知症の人の生活に  
おいて意思の尊重

認知症の人と家族等が他  
の人々と支えあいながら  
地域で安心して暮らす

新たな知見や技術の活用

主な  
基本  
的  
施  
策

#### ①認知症に関する市民の理解増進

- 認知症サポーター養成講座
- 個別地域ケア会議
- 認知症講演会
- 認知症キャラバン・メイト活動

#### ②社会参加の機会の確保

- 認知症カフェ(cog-cafe)の開催
- 本人ミーティングの開催
- チームオレンジの設置

#### ③意思決定の支援と権利利益の保護

- 認知症ケアパス(わたしの暮らし手帳)活用
- 成年後見制度の活用
- 権利擁護部会

#### ④相談体制の整備

- 地域包括支援センター(ランチ含む)運営
- 介護なんでも110番相談窓口
- ランチにおける認知症地域支援推進員の育成
- 南加賀認知症疾患医療センターとの連携

#### ⑤保健医療と介護福祉の充実

- 認知症初期集中支援チーム員の活用
- 認知症対応力向上研修(中堅職員向け研修)

#### ⑥認知症の予防等

- 地域おたっしやサークル
- もの忘れ健診
- 脳活性化プログラムの啓発普及
- かがやき予防塾
- 元気はつらつ塾
- 実証検証事業等への参加

# 令和7年度の主な認知症支援事業の取り組み

事業名	取り組み内容	令和7年度の取り組み結果
<b>①認知症ケアパス</b> (わたしの暮らし手帳) 	<b>◆認知症ケアパスによる意思決定支援の拡充</b> ・元気はつつ塾（協力員含む）や、かがやき予防塾修了生等の様々な場面を通じて、わたしの暮らし手帳の理解度を高めていく。	・70歳以上の高齢者(要支援・要介護認定者を除く)に対して送付している介護予防基本チェックリストと併せて個別に郵送(令和7年6月発送)。 ・わたしの暮らし手帳活用講座を圏域毎に実施し、手帳の理解度を高めていく(令和7年7月～8月全9回実施、延べ122名参加)。 ・かもまる講座等を通じ、各種団体へ出向き、啓発普及を継続(10回、延べ138人参加)
<b>②認知症カフェ</b> Cog-café (コグ・カフェ)	<b>◆認知症の人や家族の不安解消やつながりの場づくり</b> ・認知症の人が本音を話し合うことが出来るようになり、今後の生活の希望や新たな活動につなげる。 ・認知症の人と共に企画・運営を行い、認知症の人の「やりたい」を引き出し、できるを増やせる場としていく。	・加賀市医療センター内レストランにおいて2か月に1回開催。 ・5回実施。(認知症当事者7名、家族13名参加。令和8年1月現在)
<b>③認知症予防を目指した多因子要因実証事業(J-MINT)の検証</b>	<b>◆科学的知見に基づく予防の取り組みの社会実装検証</b> ・認知症及び軽度の認知機能の障害の発症遅延・進行予防に関する科学的知見の蓄積を社会的実装検証を通じて取り組んでいく。	・国立長寿医療研究センターが行う社会実装検証にモデル自治体として参加表明し、認証を受ける。(全国20自治体)。 ・令和8年1月20日(火)に、研究参加対象者向けプログラム説明会を開催し、61名参加。

## ①「わたしの暮らし手帳(加賀市版認知症ケアパス)」について

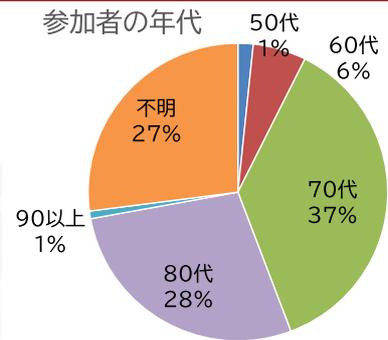
### 『わたしの暮らし手帳活用講座』

目的:配布するだけでは、十分に手帳の意図が伝わらず、活用に至らない可能性があるため、直接説明する場として活用講座を実施。

実施日:令和7年7月14日～8月18日

実施会場:9会場

参加者:122名(男性:25名、女性:97名)



#### 活用講座での参加者からの声

- 自分のことを**考える機会**になりました。年金生活に入り、自分の生きがいを何に求めていくのかを考えました。また、家族にも**自分のやりたいことを伝えていきたい**と思いました。
- あとで!と思うと結局書かないと思うので、今年中に**母と一緒に書こう**と思う。一度書いたら自ら見直しをしないので、忘れないよう、毎年このような回を開催してきっかけをください。
- できる限り**家族の負担になりたくない**ので、家族の都合の良いようにしてほしいと思っていた。けれど、皆さんのお話を聞いていたら、書いておくことで家族や**介護をしてくださる方が助かる**ことも分かったので、**頑張って書こうという気持ち**になってきました。
- 自分の振り返り**につながる。今の自分を知るためにも、書いてみようと思う。

★今後も、様々な場面で啓発活動を行いつつ、活用できた好事例などの把握に努めていく。

## ②認知症カフェ( Cog-café )について

認知症カフェ(Cog-café)に認知症地域支援推進員が認知症の人とともに参加。

- ◆推進員は、地区高齢者こころまちセンター(ランチ)に8名配置(R8.2現在)
- ◆2か月に1回、認知症の人と一緒に、認知症カフェへ参加。
- ◆認知症の人の「やりたい・のぞむ暮らし」の実現に向け、本人とともに、本人視点で、本人の声や本人の力が活かせるような取り組みを展開。



認知症地域支援推進員

推進員の声

地域住民が認知症の正しい理解を学び、実情を受け入れ、**認知症を我がごと**と捉えてもらえている地域になるといいな。

家族の声

公共機関にある多目的トイレに大人用のイスがあったらいいなあ。



認知症当事者:7名  
家族:13名  
支援者:7名  
地域住民:4名  
(R8.1時点)

★これからも認知症の人の視点を反映した活動を展開

## ③認知症予防を目指した多因子要因実証事業(J-MINT)の検証について

### 研究目的

- ◆本事業は、加賀市と国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとの研究に関する連携協定に基づいて、令和8年4月～令和10年3月末までの2年間、週に1回プログラムを提供する研究事業(定員40名)。
- ◆本事業は今後、多くの自治体で展開するにあたり、**多因子介入プログラム**(※1)が認知機能に与える効果を検証。



(※1)「多因子介入プログラム」とは単に運動といった介入だけではなく、認知症予防に必要な5つの要素(運動、栄養指導、認知トレーニング、社会参加、血管リスク管理)が含まれ、すでに効果が認められているプログラムを指します。

### ◎検証プログラム参加希望者向け説明会

令和8年1月20日(火)実施。午前の部:29人・午後の部:32人参加



国立長寿医療研究センター研究所長 桜井孝先生からの説明

★本人が研究事業への参加を同意し、研究事業の参加決定者(条件付き)に対し、令和8年4月以降、毎週水曜日、2会場(市民会館、スワトン)で認証インストラクターによる多因子介入プログラムの提供を開始予定

# 認知症施策について

目指す姿

一人ひとりが個性と能力を十分に発揮できる社会

ねらい

加賀市は、すべての高齢者に対し、地域包括ケアビジョンにある「本人主体」という考えを大切にしている。これからは更に認知症の人の思いやこれまでの暮らしぶりをつなぐ支援を進めていく。

## 明らかにすべき論点

論点1

市民に認知症の人が辿るそれぞれのステージを認知症ケアパス等で示してはいるが、認知症の理解につながっているか。

論点2

支援者の認知症ケアの実情はどうか。

現在の当市の認知症に関する事業(共生社会の実現を推進するための認知症基本法 基本施策に基づく)

主な基本的施策	<b>① 認知症に関する市民の理解増進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●認知症サポーター養成講座</li><li>●個別地域ケア会議</li><li>●認知症講演会</li><li>●認知症キャラバン・メイト活動</li></ul>	<b>③ 意思決定の支援と権利利益の保護</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●認知症ケアパス(わたしの暮らし手帳)活用</li><li>●成年後見制度の活用</li><li>●権利擁護部会</li></ul>	<b>⑤ 保健医療と介護福祉の充実</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●認知症初期集中支援チーム員の活用</li><li>●認知症対応力向上研修(中堅職員向け研修)</li></ul>
	<b>② 社会参加の機会の確保</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●認知症カフェ(cog-cafe)の開催</li><li>●本人ミーティングの開催</li><li>●チームオレンジの設置</li></ul>	<b>④ 相談体制の整備</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●地域包括支援センター(ランチ含む)運営</li><li>●介護なんでも110番相談窓口</li><li>●ランチにおける認知症地域支援推進員の育成</li><li>●南加賀認知症疾患医療センターとの連携</li></ul>	<b>⑥ 認知症の予防等</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●地域おたっしやサークル</li><li>●もの忘れ健診</li><li>●脳活性化プログラムの啓発普及</li><li>●かがやき予防塾</li><li>●元気はつらつ塾</li><li>●実証検証事業等への参加</li></ul>

- ◎支援者向けに「認知症ケアに関するアンケート」の実施。
- ◎アンケートの結果を踏まえ、介護サービス事業者協議会との意見交換。
- ◎第10期介護保険事業計画策定の機会と併せて市の認知症施策を整理し、推進計画を策定。